

今年度の指導の重点	津山っ子の学びを高める “3つの提案” 6つの取組
○学び合う子 思いやる子 たくましい子を 育てる。 ◇聴き合う授業を通して、主体的に学ぶ意欲を育てる。 ◇お互いを認め、自分も友達も大切にすることを育てる。 ◇自分で決め、最後までやりとげる力を育てる。	<input type="checkbox"/> 学習や生活のルールを全教職員で共有して児童生徒や保護者へ提示している 当初【 A 】 年度末【 】 <input type="checkbox"/> 授業の中で学習のめあてを持たせめあてについて振り返る場を設定している 当初【 B 】 年度末【 】 <input type="checkbox"/> 言語活動充実のために話し合う活動を大切にしている 当初【 B 】 年度末【 】 <input type="checkbox"/> 学習のねらいに応じてICT活用等による多様な学習を工夫している 当初【 B 】 年度末【 】 <input type="checkbox"/> 授業で学んだことが振り返ることができるような家庭学習の仕方を提示している 当初【 B 】 年度末【 】 <input type="checkbox"/> 家庭地域と共に育てるためにHPや通信等で発信している 当初【 B 】 年度末【 】

※達成度 「S:目標を大きく上回った(100%超)」|「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」|「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」|「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」|「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」|「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
【学力状況調査の結果】 全国(小学校) ○国語A・B、算数A・B、理科について、県平均と比べると正答率が低い。 ○国語では、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の正答率が低い。 国語A-7 相手や場面に応じて適切に敬語を使う 本校36.4%(全国56.0%) 国語A-8(ウ) 文の中で漢字を正しく書く 本校63.6%(全国82.2%) ○算数では、算数Aの「図形」は県と同程度だが、算数Bでは下回っている。「数と計算」「数量関係」の領域も正答率が低い。 算数B-1(1) 合同な正三角形で敷き詰められた模様の中から見いだすことができる図形として、正しいものを選ぶ 本校45.6%(全国71.7%) 算数A-7(2) 円の直径の長さが2倍になったとき、円周の長さが何倍になるか選ぶ 本校30.3%(全国55.6%) ○理科では、「観察・実験の技能」の正答率が低い。 理科4(1) ろ過後の溶液に砂が混じっている状況に着目しながら、誤った操作に気づき、適切に操作する方法を選ぶ 本校51.5%(全国71.1%) 県(小学校【3年～5年】) ○各学年の国語、算数の正答率が、県平均を下回った。 ○国語では、各学年で、「書くこと」が県平均を下回っている。 ○算数では、学年によって領域に差があるが、「量と測定」「数と計算」「数量関係」で、県平均との差がある。	【学習状況調査の結果】 ○「テレビ等の視聴時間」が1日3時間以上の児童、「テレビゲームの時間」が1日1時間以上の児童の割合が県平均より高い。 ○「家で、学校の宿題をしている」と回答した児童の割合は高いが、「家庭学習の時間」が1日1時間以上の児童の割合は県平均より低い。 ○「普段のスマホの使用時間1日1時間以上」と回答した児童の割合が県平均より高い。 ○「読書の時間」が1日30分以上の児童の割合は県平均より低く、読書を全くしない児童が3割を超えている。 ○家の人や近所の人に「あいさつをする」と回答した児童の割合は、県平均より高い。 ○「地域の行事に参加する」児童の割合は、県平均を上回っている。 ○「解き方がわからないときは、諦めずにいろいろな方法を考える」「最後まで解答を書こうと努力する」と答えた児童の割合が県平均より高い。

成果	課題
○朝のスタートで落ち着いて学習に取り組むことは定着してきた。 ○ペアやグループでの活動を取り入れた学び合いで、学習に対する意欲や人の意見を聞いて自分の考えをもととする態度が身につけてきた。 ○「最後までやりとげること」を指導の重点に掲げ、授業や日々の実践で意識して指導した。今回の無回答率は低かった。	○家庭学習は提出率90%の段階である。提出できない児童に対応した指導が必要である。 ○児童のよい行動や頑張りを認める声かけを、引き続き意識的に行う必要がある。 ○授業の中でグループ活動を取り入れたが、グループによっては深まりに差が見られた。引き続き、授業改善を図っていく。 ○小学6年では、国語、算数ともに「選択式」の設問についての正答率が低い。国語では、最も適切なものを選びとる力、算数では、正しい式や図を判断する力をつけていくことが課題である。 ○小学3～5年では、漢字や計算などの習熟を図るとともに、国語では「書くこと」、算数では「量と測定」「数量関係」の領域を系統的に指導していく必要がある。

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
基礎・基本の定着	年度末	各教科のテストにおいて、年度末学年平均85点以上を目指す。	学力調査の結果から弱点克服のためのプリントを準備し、朝学習で取り組む。個別指導を強化する。漢字・計算テストの1学期末の達成度から目標設定し、2学期末、学年末の達成度を確認する。	漢字は概ね80点以上だった。算数でも目標値の70%で、補充学習や個別指導の強化が必要。下学年の内容を朝学習や家庭学習で取り入れ、直しまでやり切り、基礎定着を徹底する。	C			
授業改善	2月末	「先生や友だちの話をよく聞いている。」「ペアやグループの学習に進んで参加できている。」「肯定的な回答が90%を超える。」	ペアやグループでの活動を取り入れた学び合いで、授業の課題に対したまとめと振り返りを必ず行い、学びの手応えや意義を感じることができるようになる。	グループ学習の雰囲気はよい。しかし深まりについては課題がある。ペアやグループをどの場面でもどれくらい使おうか工夫が必要。振り返りは習慣化し、定着しつつある。	B			
家庭学習の定着と充実	年度末	「学年×10分+10分、家で勉強している」の肯定的な回答80%、家庭学習提出率100%を目指す。	「西小学校家庭学習のすすめ」を用いた指導と家庭への再啓発を図る。家庭学習→評価→直しを徹底する。予習、復習の言葉を使い、授業とのつながりを意識させる。	家庭学習の提出率85%。内容の充実を目指し、文章を書くことや新聞を読むことなどを取り入れていく。今後も、基礎学力と同様直しまで徹底する。	B			

※達成度 「S:目標を大きく上回った(100%超)」|「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」|「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」|「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」|「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」|「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
○家庭学習の100%提出をめざす。(毎日一定の時刻、時間に、きちんと学習に向かう習慣づけをする。) ○チャイム同時スタート、同時終了。(時間のけじめの大切さを実感させる。) ○授業の中に学び合いを取り入れる。(ペアやグループ学習で、自分の考えを広げ深めさせる。) ○小中間による授業公開並びに児童生徒の情報交換を行う。	○家庭学習については「家庭学習のすすめ」をもとに学級懇談や通信などで協力を呼びかける。 ○メディアコントロールの取組を進め、各家庭での過ごし方について考える機会を持てるようにする。スマホ研修をPTAと連携して行う。 ○基本的な生活習慣の定着に向けて、生活習慣チェックカードの取組について理解と協力を求める。